

『新型コロナウイルスに学ぶ』



新型コロナウイルス流行、呼吸器系の持病を持つ方が重症化しやすいこともあり、喘息等が悪化する患者さんが増えるのでは、と心配されました。ところが、実際にはその反対で、日本では喘息の入院患者数は前年より大きく減少しています。この結果の要因は、3密を避け、外出時のマスク装着などが、通常のかぜやインフルエンザを防ぎ、花粉などのアレルゲン、たばこの煙、大気汚染物質などの喘息を悪化させる因子を減らしたと考えられます。それと、個人の健康への意識が高まり、禁煙や体調管理など日頃の予防を積極的に行ったことが良かったのでしょう。

また、地域レベルの予防対策(学校閉鎖・大規模集会の中止・在宅勤務の促進) 経済的閉鎖により不要な接触を減少させました。個人や社会が生活様式を変えることにより、病気を予防・軽減できることを実感しています。当院の検査でもインフルエンザウイルスは1年5ヶ月間陽性者が出ていません。予防効果と考えたい。

新型コロナウイルス流行、当初は患者さんが受診を控える受診抑制で減少していると考えられましたが、今シーズンはインフルエンザウイルスの流行が見られなかったことから明らかに、体調不良で受診する患者さんが減ったことが大きいと思います。コロナ禍による予防対策、健康意識がこの結果になっているのではないのでしょうか。天塩町国保病院では、令和3年7月より発熱外来の患者数が減少、新型コロナの検査等の感染症検査も減少しています。コロナ禍は健康を維持するために、予防行動や生活環境への配慮が重要であることを教えてくれたと認識しています。体調を崩す人が減ることとは、医療費削減の可能性もあり

ます。

新型コロナウイルス、多くの犠牲と我慢を強いられましたが、学ぶことも多く病気になる日常生生活(予防) 悪化させない日常生活を目指すことが大切と学びました。

【当院の新型コロナウイルス検査方法】

* 通常は抗原定量検査を免疫検査装置で行い感度はPCR法と同等レベル、検体は鼻咽頭ぬぐい液・唾液を使用しています。

* 休日・時間外は抗原定性検査を簡易キットを使用し、検体は鼻咽頭ぬぐい液を使用し、感度は、何らかの症状等があれば適用、無症状では適用外となります。



【ワクチン抗体価】

新型コロナウイルスワクチン接種が終了し、体内の抗体産生(抗体価) 量が気になる方もいらっしゃると思います。また、抗体価がどのぐらいの期間有効となるのか追加ワクチン接種が必要なのか不明点が多いですが、血液中の抗体価測定は可能です。気になる方はご相談下さい。

(文責 佐藤)

